

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小布施町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	野生鳥獣の被害防止にかかる緩衝帯整備
事業費		355,600 円 (うち支援金: 355,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

高山村や中野市との境にある雁田山は、山麓が集落等と隣接しているため、地域の人々の生活に深くとけこんでいる。しかし、近年、林業の衰退及び急傾斜地であることから間伐などの森林整備がほとんど行われなくなってしまい集落等に野生鳥獣が出没することがある。

(2) 本事業の目的

雁田山の健全な森林環境を保全するとともに、野生鳥獣と農村集落の共存・共栄のため、緩衝帯を設けるとともに里山を整備することを目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 小布施町雁田地区

(2) 対象者 地域住民、事業者

(3) 実施方法 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年、地域住民が一堂に集まったの緩衝帯づくりは実施せず、傾斜地等で住民の手では実施が困難な箇所については業者に委託して実施した。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30～令和 4 年度) 緩衝帯整備 距離約 1,500m(各年度 300m) 幅 15m

②令和 2 年度実績 距離約 500m 幅 15m



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

野生鳥獣が身を隠せる下草を伐採することで、集落等に出没しづらくなる。森林整備を近隣住民自らが行うことにより、森林に対する意識が向上する。

(2) 継続性

近隣住民による緩衝帯整備は、平成16年度から継続して毎年実施している。下草が3～5年程度で成長してしまうため、同程度のサイクルで事業個所を変更し実施していく。

(3) 普及性

雁田山麓には遊歩道も整備されているが、ウォーキングやランニング等で利用する住民も多い。また、岩松院や浄光寺といった町内有数の観光スポットもあり、観光客も多く訪れている。緩衝帯整備により下草を刈ることで、森林景観も良くなり、広く事業効果を普及することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた地域住民の皆さんをはじめとした住民ボランティアによる緩衝帯整備づくりは実施できなかったものの、傾斜地等で住民の手では実施が困難な箇所については業者委託によって、森林の奥まで見通しが良く、また景観的にも良い森林環境づくりを行うことができた。

(2) 課題

- ・地域住民等と一緒にやる緩衝帯整備づくりについては、農作物の収穫期前の整備がより効果的なため、実施の時期は地元自治会と協議の上決めていきたい。
- ・放っておくとすぐに下草が繁茂してしまうため、継続的な実施が必要である。

(3) 今後の取組方向

- 事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

年々、地域住民の山林に対する意識が向上してきていると考えられる。防護柵による侵入防止対策と組み合わせることにより、有害鳥獣による農作物の被害も軽減される。今後も継続して里山を地域住民と行政一体となって整備していく。

- 事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

- 事業を継続しない

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小布施町

No.	事業項目	事業名
2	みんなの暮らしを守る 森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除
事業費		55,000 円 (うち支援金: 55,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

公園や街路にある松はいわゆる国庫の補助の対象外であるが、それらの松に対してもいわゆる松くい虫の被害が発生している。

(2) 本事業の目的

国庫補助対象外の松くい虫被害木に対し、森林づくり推進支援金を活用し駆除することで、松くい虫の被害拡大を防ぐ。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 小布施町内全域

(2) 対象者 地域住民、事業者

(3) 実施方法

事業地は公園等公共性が高く人の往来が多いエリアのため、集積・くん蒸することが難しい。そこで被害木を破砕処理する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 破砕処理 9 m³ (各年度 1.8 m³)

②令和 2 年度実績 破砕処理 3 本 (1.04 m³)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

被害木を処理することにより、次年度の被害の拡大を防止する。

(2) 継続性

松くい虫による被害は、年により被害量の増減はあるものの引き続き発生している。さらなる被害拡大を防ぐため、継続して伐倒駆除を行っていく。

(3) 普及性

松くい虫の被害木は、木々の緑が映える時期にも関わらず枯死し葉が赤色に変色してしまう。枯死した松を伐倒することにより、一目で景観も良くなり、広く町民に事業効果を示すことができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

松くい虫の被害が発生し、被害地区の自治会長から駆除要望が寄せられた千両公会堂隣りの公園の被害木に対し、1.04 m³の伐倒駆除を行った。

(2) 課題

公園等での松くい虫被害は、住民の目につきやすく、景観的にも良くないため、迅速に対応することが必要

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

被害の拡大を防ぐため、被害を発見され次第、今後も事業を継続実施していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小布施町

No.	事業項目	事業名
3	木を活かした力強い産業づくり	県産間伐材を用いたベンチの設置
事業費		66,000 円 (うち支援金: 49,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

小布施町は県内一森林面積が狭い市町村であり、林業従事者もとても少ないため林業及び県産間伐材の利用に対する意識を醸成しづらい環境にある。

(2) 本事業の目的

県産間伐材を使用している旨を刻印したベンチを設置することで、森林税や間伐材など身近な林業への関心を高める。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所 小布施町内

(2) 対象者 町民及び観光客

(3) 実施方法 県産間伐材をベンチに加工できる事業者に発注。県産材を PR するため、町内の観光スポット等に設置した。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 県産間伐材使用ベンチ 25 基 (各年度 5 基) 設置

②令和 2 年度実績 県産間伐材使用ベンチ 2 基 設置

(町営駐車場 1 基、おぶせミュージアム 1 基)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

県産間伐材利用の促進及び地元林業の担い手の育成。県産間伐材及び森林税活用のPR効果。

(2) 継続性

町内全域にある観光スポットはその数も多く、全てに設置できずにいるのが現状である。また、住民からベンチの設置を求める声が寄せられていることもあり、効果をより普及拡大させるためには、未だ設置数が不足している。

(3) 普及性

小布施町の各所にある観光スポット等に県産間伐材ベンチを設置することで、住民のみならず年間100万人以上訪れる観光客に対しても県産材のPRをすることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

当町の森林は小規模所有がほとんどで、林業で生計を立てるものがないため、森林整備と併せて、いかに森林税が活用され、間伐材が利用されているか、PRすることが重要である。

(2) 課題

県産間伐材ベンチのほかにも、間伐材のPRや活用につながる事業も検討していく。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

当町には観光に訪れる人も多いため、今後も町の施策に合致する形で、あらゆる方策に努めていく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)